

運輸安全マネジメント評価

運輸安全マネジメント評価は、運輸事業者の安全管理体制が適切に構築され、機能しているかについて、国土交通省が確認・助言するものです。

当社では、2007年6月に第1回目の評価を受け、2015年10月に第7回目の評価を受けています。

なお、第8回目の評価は2019年度に実施される旨、国土交通省より通知を受けています。

V. 鉄道事故等の発生状況

1. 鉄道運転事故・インシデント・輸送障害の発生件数

【事故等報告（鉄道事業法・鉄道事故等報告規則に基づく報告）】

鉄道運転事故とは、国土交通省令に定める「列車衝突事故」「列車脱線事故」「列車火災事故」「踏切障害事故」「道路障害事故」「鉄道人身障害事故」「鉄道物損事故」をいいます。2018年度の鉄道運転事故は2件でしたが、全てが第三者行為によるものです。また、輸送障害については10件発生しました。

(件数)

		2018年度	2017年度	2016年度
鉄道 運 転 事 故	列車衝突事故	0	0	0
	列車脱線事故	0	0	0
	列車火災事故	0	0	0
	踏切障害事故	0	1 (1)	0
	道路障害事故	0	0	0
	鉄道人身障害事故	2 (2)	2 (2)	2 (2)
	鉄道物損事故	0	0	0
合計	2	3	2	
インシデント		0	0	0
輸送障害		10 (8)	6 (5)	6 (4)

注：() 数は、自然災害・第三者行為等による件数 [内数]

2. インシデント・輸送障害の内訳

【インシデント報告（鉄道事業法・鉄道事故等報告規則に基づく報告）】

インシデントとは、「鉄道運転事故には至らなかったが、事故が発生するおそれがあると認められる事態」のことです。2018年度にインシデントは発生していません。

【輸送障害の内訳】

輸送障害とは、鉄道による輸送に障害を生じた事態であって、鉄道運転事故（上述の列車衝突事故・列車脱線事故等7項目）以外のものをいいます。

(件数)

	2018年度	2017年度	2016年度
鉄道係員が原因の場合	0	0	0
車両・施設等が原因の場合	2	1	2
鉄道外の場合（第三者行為等）	2	4	4
自然災害の場合（風水害、地震等）	6	1	0
総件数	10	6	6

3. 主な輸送障害の内容

■輸送障害（車両故障）

発生日時：2018年5月1日（火） 12時35分頃

発生場所：武庫川線武庫川駅

発生事象：武庫川駅発武庫川団地前駅行き普通列車が武庫川駅停車中、運行不能となったため、武庫川線の一部列車の運転を見合わせました。救援措置後に同列車を車庫に回送し、13時50分頃運転を再開しました。この間、上下8本の列車が運休する影響がありました。

原因：車両の制御に必要な電源を供給する装置（電動発電機）において、制御基板の突発的故障により、出力値（電圧・周波数）が不安定になり、保護回路が動作して停止したためです。

対策：同形式車両（3編成）の緊急点検を実施し、正常であることを確認するとともに、同形式車両の検査時に実施する電動発電機の出力電圧・周波数の検査測定頻度を増やし、点検を強化しました。

■輸送障害（分岐器レールの亀裂）

発生日時：2018年12月28日（金） 11時00分頃

発生場所：本線梅田駅構内

発生事象：軌道巡視中の保線係員が、梅田駅構内の分岐器レールに亀裂を発見し、直ちに当該区間通過列車の一旦停止・徐行運転を行いました。その後、13時50分頃から梅田駅～尼崎駅間上下線の運転を休止してレール交換を実施し、15時00分頃から運転を再開しました。この間、約130本の列車に運休や遅れ等の影響がありました。

原因：分岐器を構成する部材に不具合が生じたためと推測され、全線に敷設されている全ての分岐器を点検し、異常がないことを確認しました。

対策：不具合が生じた箇所を線路巡視時の重点点検箇所として点検を強化しました。

■輸送障害（地震発生）

発生日時：2018年6月18日（月） 7時58分頃

発生場所：全線（本線、阪神なんば線、武庫川線、神戸高速線）

発生事象：大阪府北部を震源とした地震発生により、当社沿線に設置されている震度計が震度5弱を計測したため、全線で列車運行を停止しました。

対応：全線の施設点検を実施した後、試運転列車による安全確認を行い、15時00分頃から順次運転を再開しました。この影響により、約730本の列車に運休や遅れ等の影響がありました。

■輸送障害（風水害）

発生日時：2018年9月4日（火） 13時55分頃

発生場所：全線（本線、阪神なんば線、武庫川線、神戸高速線）

発生事象：台風21号の接近に伴い、10時30分頃から本線の特急・急行の運転を順次見合わせ、13時20分頃には阪神なんば線の淀川防潮鉄扉閉鎖のため阪神なんば線の運転を見合わせました。その後風速が規定値を超過したため、13時55分頃に全線で運転を見合わせました。

対応：16時頃より風が弱まり、全線の施設点検を行い試運転列車による安全確認後、19時10分頃から本線と神戸高速線から順次運転を再開しました。この影響により、約880本の列車に運休や遅れ等の影響がありました。



防潮鉄扉閉鎖状況



甲子園駅西方の飛来物